計画書(区域施策編)の主な修正箇所(1)

た、秋から冬にかけては、霧がよく発生し、「丹波霧」と呼ばれています。 丹波市(柏原地域気象観測所)の年平均気温は上昇傾向で推移しており、豊間 結果から、丹波市でも霧の発生日数が減少していると推測されます。また、令和 度に実施した市民意識調査では、回答者の 9 割の人が温暖化の影響として、「猛き 夜の増加」を感じていると回答しており、実際に猛暑日(日最高気温が 35 度以 年間日数は増加傾向となっています。 これらより、丹波市内でも温暖化の影響が顕在化しつつあると考えられます。 図 3-1 年平均気温の推移 (単位:で) 16.0 15.0 年平均気温の推移(柏原地域気象観測所) 16.0 1779 1982 1985 1988 1991 1994 1997 2000 2003 2006 2009 2012 2015 2018 年 (出典:過去の気象データ(気象庁)を加 図 3-2 猛暑日(日最高気温が 35℃以上)の年間日数の推移 (日) 30									
丹波市は瀬戸内海型、内陸型気候に属し、年間の寒暖差、昼夜間の温度差がた、秋から冬にかけては、霧がよく発生し、「丹波霧」と呼ばれています。 丹波市(柏原地域気象観測所)の年平均気温は上昇傾向で推移しており、豊 結果から、丹波市でも霧の発生日数が減少していると推測されます。また、令和度に実施した市民意識調査では、回答者の 9 割の人が温暖化の影響として、「猛液の増加」を感じていると回答しており、実際に猛暑日(日最高気温が 35 度以年間日数は増加傾向となっています。 これらより、丹波市内でも温暖化の影響が顕在化しつつあると考えられます。 図 3-1 年平均気温の推移 (単位:で) 年平均気温の推移 (単位:で) 年平均気温の推移 (単位:で) 15.0 年 14.0 均 気 13.0 担 12.0 1979 1982 1985 1988 1991 1994 1997 2000 2003 2006 2009 2012 2015 2018 年 (出典:過去の気象データ(気象庁)を加速 図 3-2 猛暑日(日最高気温が 35で以上)の年間日数の推移 (日) 30 猛暑日(35で以上)の年間日数の推移(柏原地域気象観測所)									
た、秋から冬にかけては、霧がよく発生し、「丹波霧」と呼ばれています。 丹波市(柏原地域気象観測所)の年平均気温は上昇傾向で推移しており、豊間 結果から、丹波市でも霧の発生日数が減少していると推測されます。また、令和 度に実施した市民意識調査では、回答者の 9 割の人が温暖化の影響として、「猛き 夜の増加」を感じていると回答しており、実際に猛暑日(日最高気温が 35 度以 年間日数は増加傾向となっています。 これらより、丹波市内でも温暖化の影響が顕在化しつつあると考えられます。 図 3-1 年平均気温の推移 (単位:で) 16.0 15.0 年平均気温の推移(柏原地域気象観測所) 16.0 1779 1982 1985 1988 1991 1994 1997 2000 2003 2006 2009 2012 2015 2018 年 (出典:過去の気象データ(気象庁)を加 図 3-2 猛暑日(日最高気温が 35℃以上)の年間日数の推移 (日) 30									
(単位: ℃) 15.0 年 14.0 均 気 13.0 12.0 1979 1982 1985 1988 1991 1994 1997 2000 2003 2006 2009 2012 2015 2018 年 (出典: 過去の気象データ(気象庁) を加い 図 3-2 猛暑日(日最高気温が 35℃以上)の年間日数の推移 (日) 30 猛暑日(35℃以上)の年間日数の推移(柏原地域気象観測所)	丹波市(柏原地域気象観測所)の年平均気温は上昇傾向で推移しており、豊岡市の観測結果から、丹波市でも霧の発生日数が減少していると推測されます。また、令和 5(2023)年度に実施した市民意識調査では、回答者の 9 割の人が温暖化の影響として、「猛暑日や熱帯夜の増加」を感じていると回答しており、実際に猛暑日(日最高気温が 35 度以上の日)の								
16.0 15.0 年 14.0 均気 13.0 12.0 1979 1982 1985 1988 1991 1994 1997 2000 2003 2006 2009 2012 2015 2018 年 (出典:過去の気象データ(気象庁)を加い 図 3-2 猛暑日(日最高気温が 35℃以上)の年間日数の推移 (日) 30 猛暑日(35℃以上)の年間日数の推移(柏原地域気象観測所)									
年 14.0 均気 13.0 12.0 1979 1982 1985 1988 1991 1994 1997 2000 2003 2006 2009 2012 2015 2018 年 (出典:過去の気象データ(気象庁)を加い 図 3-2 猛暑日(日最高気温が35℃以上)の年間日数の推移 (日)									
1979 1982 1985 1988 1991 1994 1997 2000 2003 2006 2009 2012 2015 2018 年 (出典:過去の気象データ(気象庁)を加める 図 3-2 猛暑日(日最高気温が35℃以上)の年間日数の推移 (日) 猛暑日(35℃以上)の年間日数の推移(柏原地域気象観測所) 30 30 30 30 30 30 30 30									
(出典:過去の気象データ(気象庁)を加. 図 3-2 猛暑日(日最高気温が35°C以上)の年間日数の推移 (日) 30 猛暑日(35°C以上)の年間日数の推移(柏原地域気象観測所)	1979 1982 1985 1988 1991 1994 1997 2000 2003 2006 2009 2012 2015 2018 2021								
(日) 猛暑日 (35℃以上) の年間日数の推移(柏原地域気象観測所) 30	工して作成)								
30									
猛暑 20	(日) 猛暑日 (35°C以上) の年間日数の推移(柏原地域気象観測所) 30								
猛暑 20 日年 間 10 日数 0 1979 1982 1985 1988 1991 1994 1997 2000 2003 2006 2009 2012 2015 201年 (出典:環境省 A-PLAT 気象観測データ閲覧ツールより・									
	0.753								
p. 18 図 3-13 ・一般廃棄物のデータを修正 (焼却量は丹波市クリーンセンターの ていたが、山南町分が含まれていなかったため、環境庁の一般原実態調査の市全体の焼却量に修正)。									
(†) 一般廃棄物直接焼却量	(%)								
- 20,000 般	60% ラスチック 20% 卒 0%								

計画書(区域施策編)の主な修正箇所(2)

	図表				修』	E事項						
p. 20	表 3-1、	・一般廃棄物データの修正に伴い、廃棄物の CO2 排出量を修正 (0.5~1.0kt										
	図 3-18 ほど増加)。 表 3-1 二酸化炭素排出量の推計結果											
		年度										
		部門・分野	単位	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
		産業	kt-CO ₂	287.9	290.0	294.7	285.1	288.6	279.7	307.3	260.1	
		農林水産業	kt-CO ₂	10.7	13.3	16.4	17.1	13.7	12.4	12.5	14.8	
		建設業・鉱業	kt-CO ₂	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	3.6	3.3	3.6	
		製造業	kt-CO ₂	273.0	272.5	274.0	263.7	270.7	263.7	291.5	241.7	
		業務その他	kt-CO ₂	117.8	124.8	117.4	104.3	90.1	74.5	71.8	70.6	
		家庭	kt-CO ₂	79.9	71.8	65.8	60.4	59.4	48.8	51.1	50.9	
		運輸	kt-CO ₂	162.4	161.0	158.4	158.6	155.5	154.0	152.4	151.0	
		自動車(旅客)	kt-CO ₂	84.2	82.7	80.9	79.7	78.2	76.3	74.6	72.6	
		自動車(貨物)	kt-CO ₂	73.0	73. 2	72.6	74.1	72.7	73.4	73.6	74.4	
		数道 廃棄物	kt-C0 ₂	5. 3 5. 9	5. I 6. 2	5. 0 7. 5	4.8 5.4	4.6 7.0	4.3 9.4	4. 2 7. 0	7.3	
		合計	k1-C0 ₂	654.0		643.7	613.7	2.00			539.8	
※kt-CO ₂ :温室効果ガスの単位。温室効果ガスを二酸化炭素に換算した時の量(千トン)。 図 3-18 二酸化炭素排出量の推計結果									307.0	001.0		
		(kt-CO ₂) 二酸化炭素排出量 800										
		700 二 600 酸 化 500 素 400 排 300 100 100 2013年	290 125 72 161	29 ————————————————————————————————————	7	104 60 159	289 90 59 156 7	566.5 280 74 49 154 9 2018年	589.8 307 72 51 152 2019年	539.8 260 71 51 151 2020年	7	
				■産業	■業務そ	の他	家庭	運輸	■廃棄物	勿		

計画書(区域施策編)の主な修正箇所(3)

	図表	修正事項								
p. 32	表 4-2	・一般廃棄物データの修正に伴い、廃棄物の将来推計値を修正。								
	図 4-2	・なお、排出量削減目標 48%と吸収源を見込んだ削減量 61%は変更なし。								
			表 4	-2 二酸化炭素	長排出量の削減 目]標				
			単位	2013 年度実績	2020 年度実績	2030 年度削減目標				
		部門・分野		排出量	排出量	排出量	増減 (2013 年度比)			
		産業	kt-CO ₂	287.9	260.1	152.2	▲ 47%			
		業務その他	kt-CO ₂	117.8	70.6	44.9	▲62%			
		家庭	kt-CO ₂	79.9	50.9	30.2	▲62%			
		運輸	kt-CO ₂	162.5	151.0	105.5	▲35%			
		廃棄物	kt-CO ₂	5.9	7.3	4.4	▲25%			
		排出量合計	kt-CO ₂	654.0	539.8	337.1				
		型 吸収源対策 型	kt-C0 ₂	- 654.0		▲ 92.9 ▲ 87.2 447.0 249.9				
		(kt-C0 ₂)	図 4	-2 二 酸化炭素	長排出量の削減 目	1標				
		800		[長期目標]						
		700	1/	2013年度比	£		;			
		- 600 - 酸 500		_17%削減 540						
		酸 500		447	2013年度比					
		化 炭 400 素 300 排 出 200			48%削減 337	,				
		素 300 排			250	<u> </u>	排出量			
		出 200					押出軍			
		100		-			±0			
		0								
		-1002013年度		2020年度	2030年度		2050年度			
		2010-10	二二二酸化炭			■二酸化炭素実質排出	5 (1.5)			